

2018年度 本部青年委員会研修会を開催

「～震災を風化させない～ 被災地の復興状況の視察と北海道の開拓史から学ぶ」リーダー研修を実施

中央書記長 矢戸良太

「震災を風化させない」

平成は1989年にはじまり、2019年4月にその幕を閉じた。この30年を振り返ってみると、大きな災害に見舞われ続けたことがわかる。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災から24年、未曾有の被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災の発生から8年、2016年4月14日以降相次いで発生した熊本地震から3年が経過した。いずれも最大震度7を観測した大地震である。また、30年の間には、過去にも起きていた場所で再び災害が起きていることもわかる。先人たちが辛い経験をしながら、また被害がうまれてしまった、というのとはとても悲しいことである。犠牲になった人たちのために、残された私たちがすることはなにか、これから生きる人たちのためにすることはなにか、私たちは真剣に考えていかなければならない。

2018年9月6日に北海道胆振東部地震が発生し、厚真町で震度7を観測。苫東厚真火力発電所が被害をうけたことから、北海道全域で停電（ブラックアウト）が発生したことは記憶に新しい。実は北海道では、この30年間で多くの災害が発生している。1993年1月の釧路沖地震、1993年7月の北海道南西沖地震、1994年10月の北海道東方沖地震、2003年9月の十勝沖地震、そして2018年



浄水場、タンクの横に立っていた建物が土砂で流された

8月17日から1週間の間で台風7号・9号・11号が上陸し大雨・暴風により甚大な被害をもたらした。

「震災を風化させない」取り組みは、ボランティアや視察により、復興状況を把握すると共に、組合員や家族にむけた情報提供を行いながら防災・減災の意識喚起を促し、自ら「備える」ことの大切さを認識する。加えて、被災地での物品購入等、組織全体でできる被災地への復興・再生に向けた取り組みである。これは「助け合い・支え合い」という労働運動の原点であり、「助け合い・支え合い」を実現する中で再認識された「絆」の尊さを貴重な財産としつつ、いま一度、被災地に寄り添い続ける思いを行動で示していくことが重要であり、本年度は北海道胆振厚真町といえば「ハスカップ」。その農園です。



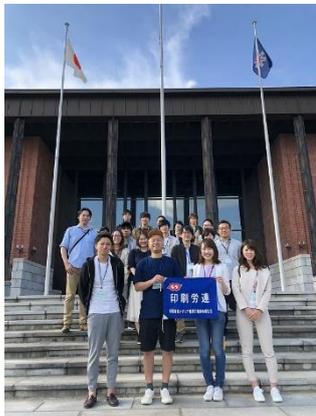
東部地震の被災地視察を実施してきた山合いの茶色のところは表層が崩れた部分



厚真川の上流にある「厚真ダム」にて

「北海道の開拓史から学ぶ」

また、リーダー研修として、初日は北海道の開拓史やアイヌ文化を含めた歴史・文化学習を実施してきた。北海道開拓の村・北海道博物館にて、北海道の歴史や文化、自然環境と人との関わりやアイヌ民族の文化、本州から渡ってきた移住者の暮らしなどを学んだ。折しも今年4月19日に、北海道などに居住するアイヌ民族を、法律上初めて「先住民族」と明記し、アイヌ民族の誇りを尊重し、必要な支援策を盛り込んだ新法が参議院本会議で可決・成立した。その意味も含めて、博物館でのアイヌに関する具体展示物に触れながらの総合的な研修とすることができた。



北海道博物館にて



「北海道開拓の村」を2班で見学研修



にしん漁で財を成した青山家



小川家酪農畜舎

◆参加された青年代表者（組織名略称）

- 【北海道】堀崎優介さん（野崎）【宮城】佐藤幸治さん（野崎）加藤謙基さん（フォームズ）【関東北部】初谷明日花さん（フォームズ）富重翔太さん（リーパー）
- 【関東南部】菅野青太郎さん（凸版）織茂杏里さん（凸版）【石川】高岡徹さん（高桑）森優生さん（高桑）【愛知】毛利昭昭さん（竹田）永井大地さん（名鉄局）
- 【京滋】野口大護さん（大平）浅見卓矢さん（野崎）【大阪】岩崎苑美さん（凸版）野本美菜子さん（凸版）【福岡】武智英里子さん（フォームズ）逆瀬川玲奈さん（凸版）
- 【熊本】林田勝也さん（凸版）北川勇治さん（凸版）

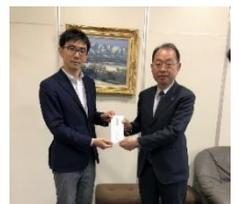
※北海道地方協議会より、鈴木議長・高野事務局長に同行いただきました。

「本部青年委員研修を通じて」

北海道地方協議会議長 鈴木啓之

今回の研修には北海道地協として、企画、立案、運営と携わって来ました。昨年発生した「胆振東部地震」の発生後、北海道地協として何か出来る事はないかと考え、本部青年研修での視察を含め、この震災を風化させない事が私たちの責務と考えておりました。また、次世代リーダー育成の観点から北海道独自の開拓史を学び、知識の醸成というテーマを元に研修を立案してまいりました。北海道は大変厳しい冬があり独特の厳しさがあります。今回の研修で訪れた「北海道開拓の村」「北海道博物館」では、様々な展示物等から未開の北海道の大地を、冬の厳しい生活を少しでも豊かに生活する為、様々な創意、工夫をしていた事を実感しました。当時の方たちは経済的にも環境的にも大変厳しい状況であったと思います。現在はAIやIoT化が進み豊かな時代にはなりました。しかし、当時の先人たちのように「更に豊かにする」気持ちには私も含め薄れているのかもしれませんが、労働組合も様々な観点から「生活を豊かに」する活動を行なっておりますが、私も労働組合に携わる立場として今後の活動への本質を再確認できました。2018年9月6日に発生した「胆振東部地震」、私自身も二日間ブラックアウト（停電状態）を経験しました。しかし、この視察で目の当たりにした被災は想像以上に甚大なものでした。非常に広範囲に渡る地崩れが建物を流し、尊い命が奪われました。その様な状況が今も散見され心が痛む光景の中、語り部さんからは「多くの方に視察頂き、いつ発生するかかわからない地震に対して備え、教訓として下さい。」と大変重要なメッセージを授かりました。

主催者側の一人として、関係する皆様にはこの青年研修を北海道で開催出来た事に感謝をお伝えし、授かったメッセージを参加者全員が受け止め、各地協、職場、地域に届けて頂く事を切に願います。



2019年5月31日、印刷労連北海道地方協議会の田中幹事より連合北海道の出村会長へ義援金をお渡ししました。この義援金は、中央メーデーの模範店の売上全額を拠出したものであり、出村会長からは感謝の意と、今後も震災を風化させない取り組みを続けて欲しいとのお話しをいただきました。